

ラボ・センター紹介

比較政治制度システム論ラボ

(Comparative Political Systems Laboratory)

代表 ヒジノ ケン・ビクター・レオナード 准教授

専門分野: 比較政治制度論、政党組織論、地方政治・自治の比較システム論



ラボメンバーとヒジノ准教授(写真中央)

現在日本と世界が直面するあらゆる大規模社会システムの問題の根本には、利害関係者間の対立により合意形成が困難である事態が存在する。地域活性化、エネルギー問題、震災復興、教育改革、社会保障、安全保障、地球温暖化対策等、SDMの教員や学生が挑むテーマにも、技術的または本質的な改善策が存在するにも関わらず、意思決定プロセスにおける構造上の制約により改善が妨げられるケースが多くみられる。本ラボでは、社会システムにおける各ステークホルダー間の利害関係とそれぞれの要求を踏まえて合意を形成していく過程—いわゆる政治—を中心的テーマに据えている。これら政治的要素を理解せずには、現実的な社会問題のソリューションやリ・デザインは生まれえないと思われる。

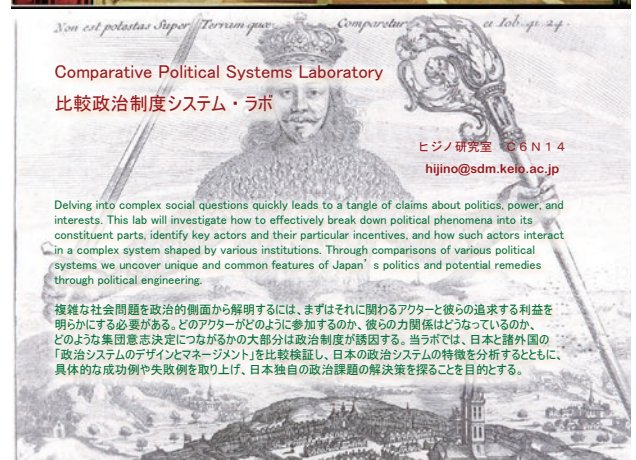
社会システムのステークホルダーがどのような制約の中で、どのような場と過程で意思を反映し、行動し、合意に至るのかを理解するには、比較政治制度論のパラダイムが有効だ。比較政治制度論とは、政治的アクターの選好を特定し、彼らの行動を制約し、政治的決定を誘因するあらゆる制度の複合的帰結の研究である。ここでいう制度とは、広義に「人間の相互作用を形作る人為的な拘束」(ゲームのルール)であるが、具体的には選挙制度、政党制度、執行制度、自治制度などを指し、また、アクターの行動を規定する文化や価値観も含んでいる。これらの諸制度を、政治システムにおけるサブ・システムとしてとらえ、相互作用を分析し、いかなる帰結を生み出すのかを検証する。そうして得た知見を、制度設計・政策提言につなげるのが、比較制度論者の命題である。

本ラボの中核テーマは政治制度であるが、その中でも、地方自治、地方—中央関係、地域活性化、道州制における政治過程等に焦点を当てている。私自身の目下の研究テーマは「分権社会における住民自治に有益な政党政治」である。

ラボは2011年4月に発足したばかりだが、現在5名のゼミ生、3名の他ゼミの学生、そして2名の外部研究員が参加している。学生の研究テーマは、地方議員の選挙公報のデザイン、自治体の政策決定過程、持続可能な寄付金システム、フランスにおける移民政策、温泉における外国人観光客誘致策など多岐にわたっている。

ラボでは、学期はじめに社会科学の方法論と比較研究の基礎知識に関する講義を行い、また、参加学生が関心を持つテーマに沿った名著(先学期は『失敗の本質』や『戦略的思考の技術』など)を題材に議論を行いながら、各学生の研究の指導を進めている。

なお、ラボの課外活動として、前学期には、アリストテレスをはじめ歴史上の巡回好きな哲学者にちなんで「歩きながら考える会」を開催した。横浜の山手公園から墨田区のスカイツリーまで、研究で加熱気味の頭を冷やし、酸素を循環させ、足を伸ばして、半日かけて歩いた。毎学期このようなperipateticな「遠」習を行い、ひらめきの場を提供したいと思っている。



ラボポスター



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
 Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
 System Design and Management